



東京地本は輪軸圧入作業のデータ 改ざんについて会社と議論します！！

9月20日に輪軸組み立て作業の点検結果についてプレス発表がされました。結果は、「データは正しく記録されている」「圧入力値が規定の範囲内にある」「76本は圧入力値が規定は下回りながらも、『しめしろ』が適正である」「車輪の内面距離寸法等が規定の範囲内であり、技術的に安全である」との事です。東労組東京地本として10月28日、「輪軸圧入作業の不適切な取り扱い等について」に関する申し入れを会社に提出しています。

12月9日に渡利副社長に処分が出されましたが、今後、現場社員に処分を出すことは到底許せません。この問題は会社内の組織的な課題によるものと考え、今後、東京地本は安全風土再確立に向けて、真摯に団体交渉に臨みます。

【申し入れ内容】

- 2017年までの数年間にわたり行われていた輪軸組み立て時の不正行為について、不正の内容と行われた経緯・根拠を具体的に示すこと。また、当時の作業マニュアルを示し、品質管理体制でどのような課題があったのか具体的に示すこと。
- 2017年東地申第 1 号「JR東労組東京地本第34回定期大会発言」に基づく申し入れの議論経過と、「改ざん・修正の意義づけ」「プレス発表しない」等の判断はどのような経緯で行われたのかを具体的に示すこと。
- 2017年の団体交渉以降、安全第一のための整備標準に則ったマニュアルの見直しや数値管理の厳格化、社内での周知や教育など、現場指導をどのように行ったのか具体的に示すこと。
- 圧入力値が規定の範囲を下回る輪軸を、次回の装置保全以上の入場時まで営業運転に供していた根拠を具体的に示すこと。
- 首都圏本部として東京総合車両センターの職場実態に伴う課題と、今後の指導方向や品質管理体制の見直しなどの具体的な対策を示すこと。
- 入場車両の修繕工程にゆとりを持たせるため、予備車と予備品の配置を増やすこと。
- 輪軸圧入作業の不適切な取り扱いについては、社内の組織的な課題であるため、作業に関わった組合員や社員に対して、処分や責任は負わせないこと。

不正を受け止め、原因の究明と現場に責任の所在を押し付ける事のない真の対策の実施を求め
会社と誠心誠意議論していきます！！